

あなたに伝えたい、わたしの教訓

いちにちまえ ～一日前プロジェクト～

「一日前プロジェクト」の物語は、公民館や内閣府のホームページ (<http://www.bousai.go.jp/km/>) でご覧いただけます。

阪神・淡路大震災の体験談

2階で寝ていて助かった

～逃げ出す時に切った足、入浴時に気づく～

(淡路市 60代 女性)

たまたま私たちは2階で寝ていたから助かったけど、下で寝ていたら完全にやられていたと思います。1階の天井が完全に落ちて、2階部分が1階のようになっていましたから。

主人が、枕元でライターをつけてくれてね。ライターで照らしながら、「入り口が開いとるから、先に出る」って言ったけど、2階の窓の棧やガラスが全部飛んでしまって、入り口に見えたのだらうと思います。

ちょうど私たちの寝ている枕元にコタツがあって、こっち側にあんま器があって、反対側に大きなテレビ。そのテレビとこたつとあんま器に天井が支えられていたので、私は主人が引っ張り出してくれたガウンをパジャマの上にはおり、スリッパをはいて、はって出ました。背の高いタンスは山側に倒れてく

れたので、運良く、下敷きにならずにすみました。

その夜、難を逃れた妹の家でお風呂に入ろうとしたら、服がくっついて脱げないのです。

おかしいなと思ってみ

ると、太もものあたりが切れ

て血が固まっていた。地震で落ちた人形ケースのガラスがふとんに突き刺さり、中の羽毛が空中に舞い上がって前が良く見えないほどでしたので、それで切ったのでしょう。割れたガラスは本当に怖いものだと思います。



平成17年台風第14号の体験談

命綱つけて濁流の中を泳いだ

～おとしより救助も命がけ～

(延岡市 30代 男性)

僕は社会福祉協議会の職員ですが、当時消防団員もやっていたので、救助活動のために現場に行きました。そこはほんとうにすごい展開になっていて、「役場からの命令じゃないと動かない」と言っていたおじいちゃん、おばあちゃんが家に取り残されている状況でした。

水の流れが速くて、ボートをこいだら自分たちが流されちゃうぐらいなんです。で、僕は泳ぎがかなり得意なものですから、命綱をつけ、ボートのロープをもって、濁流の中を泳いで助けに行きました。なんとか無事に泳ぎきりましたが、普通の人は、絶対にしてはいけないと思います。危険ですからね。

「とにかく乗りなさい」と言って、二人をボートに乗せました。おじいちゃん達は、とりえず必要な

ものだけはビニール袋に入れていたのですが、あとは着の身着のまま。雨が激しくて傘をさせるような状態ではなかったので、ずぶぬれになりながらボートの上で不安そうにしていました。

近所の人が避難するように言っても、かたくなに「もう、ここから動かたくない」という人がよくいますが、やっぱり避難は早めにしないといけませんね。



出典：内閣府「一日前プロジェクト」

※「一日前プロジェクト」とは、『災害の一日前に戻れたら、あなたは何をしますか?』をテーマに、被災者や災害対応に従事された方々にインタビューを行い、そこから導き出される教訓などを短いお話にまとめたものです。